

2013年2月6日

熊本県知事 蒲島郁夫 様
熊本市長 幸山政史 様
国土交通大臣 羽田雄一郎様

立野ダムによらない自然と生活を守る会 代表 中島 康
連絡先 熊本市西区島崎4丁目5-13
電話 090-2505-3880 FAX 096-354-2966

抗議文

国土交通省は1月29日、2013年度政府予算案に国営立野ダム建設事業費として28億3200万円を盛り込み、それに対し「知事、熊本市長は歓迎」と報道されています。

2010年、国土交通省は「できるだけダムに頼らない治水」への政策転換を進めるための検証作業を始めました。今回の事業検証では、他の治水対策案と比べて立野ダムが最も費用がかからないと結論づけられましたが、毎年2億6000万円もかかるダムの維持管理費をコストに含めていない等、恣意的な検証がなされました。ダムはやがて寿命を迎え、撤去される運命にあります。その時の膨大なコストも検討されませんでした。

九地整が最も有利としたダム案と、それに次ぐ評価を下した輪中堤案を維持管理費を含めた70年間でみると、ダム案673億円、輪中堤案662億円と逆転、輪中堤案が11億円安くなります。ダムは土砂の堆積など100年先まで想定しており、100年間では輪中堤案の674億円に対し、ダム案は751億円と77億円上回ります。河道掘削案も724億円とダム案を下回ります（熊本日日新聞報道より）。

蒲島知事は荒瀬ダム撤去に関し、「これからの公共事業は撤去費用も含めて検討する必要がある」旨発言されていますが、ダム事業検証において立野ダムは撤去費用どころか毎年の維持管理費さえも考えずに検討しているのです。

立野ダムの総事業費は、当初予算の2倍以上の917億円の膨れ上がりました。川辺川ダムなどの例を考えると、今後さらに事業費が膨らむことが容易に考えられます。

9月22日より白川流域の熊本市、大津町、南阿蘇村で開かれた公聴会では、3日間で30名の流域住民が意見陳述をし、全員が立野ダムに反対や疑問の意見を述べ、「立野ダム案がよい」と発言した住民は一人もいませんでした。環境に関する悪影響は、これまで述べてきたとおりです。

今回の立野ダム予算の大幅増額と、それに対する県知事、熊本市長の態度に強く抗議するとともに、以下の点について説明責任を果たされることを強く求めます。2月15日までの回答をお願いします。

記

1. 立野ダムの維持管理費を考慮せずに費用の検証をした点について。
2. 立野ダムの撤去費用を考慮せずに費用の検証をした点について。

以上